

「運動部活動の意義に関する意識調査」

～学校関係者、保護者、生徒に対するアンケート調査を通して～

福岡県中学校体育連盟 研究部

福岡市立下山門中学校 教諭 朝野 充大

〈提案趣旨〉

福岡県中学校体育連盟研究部（以下研究部）では、これまでに運動部活動(以下部活動)に関するさまざまな研究を通して、県内の中学校に運動部活動の在り方について発信してきた。そんな中、平成30年3月、スポーツ庁より「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」（以下ガイドライン）が策定された。福岡県では平成30年12月「福岡県運動部活動の在り方に関する指針」（福岡県教育委員会）が策定された。これらを受け、各自治体においても運動部活動におけるガイドラインの作成等が実施されている現状がある。

そこで、ガイドラインを受けての学校職員の反応や保護者、部活動生徒(以下生徒)の運動部活動に対する意識を調査することで、運動部活動の意義や価値を示していくことができるのではないかと考えこの研究に着手した。

1 はじめに

(1) 研究部のこれまでの取組

①平成30年度の研究

「運動部活動の意義に関する意識調査」学校関係者（運動部活動顧問など）に対して（1年次）

本研究の1次調査として、学校関係者を対象に、運動部活動の運営に関する調査を行った。各地区の研究部より県内各中学校（374校）へアンケート調査を実施し、1,342名から回収して分析を行った。

②令和元年度の研究

「運動部活動の意義に関する意識調査」保護者に対して（2年次）

本研究の2次調査として、運動部活動に所属している生徒の保護者を対象に、各地区の研究部より県内各中学校（306校）へアンケート調査を実施し、881名から回収して分析を行った。

③令和2年度の研究

「運動部活動の意義に関する意識調査」まとめ（3年次）

本研究のまとめとして、学校関係者と保護者における運動部活動の必要性について分析を行い、運動部活動が学校教育において大変意義深いものと結論づけた。

(2) 今年度の取り組み

今年度は、運動部活動生徒へのアンケート調査を実施し、運動部活動の意義や価値について明らかにしていくこととした。アンケート調査は各校でQRコードを配布したり、福岡県中学校体育連盟の大会パンフレットのページにアンケート協力の依頼を載せたりすることで、できるだけ多くの回答を得られるようにした。

時期は7月から8月の下旬までに行い、回収されたアンケート結果は4,926名（21競技）であった。

運動部活動生徒への質問項目

1. 在籍している学校の所在地、学年、所属している運動部活動
2. 運動部活動に入部した理由（選択制）
3. 運動部活動が、どのようなところを成長させてくれているか（複数選択制）
4. 運動部活動が学校からなくなったら、どのようなことが予想されるか（複数選択制）
5. 運動部活動が、さらに魅力的な活動になるために、どのようなことを期待するか（自由記述）

（3）運動部活動の意義とは

中学校学習指導要領(平成29年告示、文部科学省) 第1章総則「第5 学校運営上の留意事項」では「ウ 教育課程外の学校教育活動と教育課程の関連が図られるように留意するものとする。特に、生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化、科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。」

「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」(平成30年3月、スポーツ庁)では、「体力や技能の向上を図る目的以外でも、異年齢との交流の中で、生徒同士や生徒と教師等との好ましい人間関係の構築を図ったり、学習意欲の向上や自己肯定感、責任感、連帯感の涵養に資するなど、生徒の多様な学びの場として、教育的意義が大きい」と示されている。

これらのことから、生徒の自主的、自発的な参加によって行われるものであり、体力や技能向上だけでなく、好ましい人間関係の構築、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養などに資すると定義されているといえる。

2 運動部活動生徒へのアンケート調査結果

（1）結果の概要

アンケート調査を実施したところ、県内すべての地区から回答を得ることができた。また、回答者の所属学年も3学年すべてから多くの回答を得た。

○所属している運動部活動

種目名	件数	種目名	件数
陸上競技	622	卓球	478
駅伝競技	36	バドミントン	181
水泳	66	ソフトボール	99
バスケットボール	731	柔道	56
サッカー	410	剣道	275
ハンドボール	8	相撲	1
軟式野球	442	空手道	4
体操競技	0	テニス	17
新体操競技	5	野外活動	30
バレーボール	657	スケート	2
ソフトテニス	800	スキー	6

県内各中学校に設置されている様々な種目の部活動に加入している生徒から多くの回答をえることができた。

(2) 運動部活動に入部した理由

理 由	件 数	割 合
希望する種目があったから	2, 2 5 1	4 5. 7 %
友人関係	8 9 8	1 8. 2 %
兄姉関係	3 1 3	6. 4 %
保護者の勧め	3 1 0	6. 3 %
希望するクラブチームがなかったから	1 5 8	3. 2 %
先輩がいたから	1 5 0	3. 0 %
指導者に魅力があったから	9 7	2. 0 %
その他	7 4 9	1 5. 2 %

「その他」の意見

- ・ 体力をつけるため。(北九州市、3年生、駅伝競走)
- ・ 先輩が優しそうだった、雰囲気よかったから。(北九州市、2年生、バレーボール)
- ・ 全国大会に出たいから。(筑豊、1年生、水泳)
- ・ 将来の夢をかなえるため。(京築、1年生、軟式野球)
- ・ 挑戦してみたいと思ったから。(北九州市、1年生、バスケットボール)
- ・ 水害時に、助かるように水泳の心得があったほうが良いと思ったから。(福岡市、3年生、水泳)
- ・ 礼儀を学ぶため。(福岡市、2年生、剣道)

「希望する種目があったから」という回答が最も多かったことから、生徒が希望する種目の部活動が入学した中学校に設置されているかどうか部活動に入部するうえで重要な要素であるといえる。

(3) 運動部活動が、どのようなところを成長させてくれているか

項目	件数	割合
人間関係	2, 940	59.7%
技能面	2, 312	46.9%
態度面	1, 934	39.3%
生活面	1, 791	36.4%
その他	263	5.3%

「人間関係」の具体的な内容

- ・友情を深めてくれる。(福岡市、3年生、ソフトテニス)
- ・仲良くなかった友達とも励まし合ったり、助け合ったりした。(筑豊、3年生、陸上競技)
- ・上下関係のマナーを身につけることができた。(北九州市、バスケットボール、1年生)
- ・人との関わりがあり、色んな人と出会えるから。(北九州市、2年生、バレーボール)

「技能面」の具体的な内容

- ・入部した時よりも1秒は確実に早くなった。(北九州市、2年生、陸上競技)
- ・どのように練習すれば上手くなるのかを考えながらしている。(筑前、1年生、バレーボール)
- ・シュートや、パスの精度が上がったりするなど技術が向上する。(福岡市、1年生、サッカー)
- ・技能は練習や自主練で成長すると思った。(筑前、2年生、ソフトテニス)

「態度面」の具体的な内容

- ・我慢強さが成長した。(筑前、2年生、バスケットボール)
- ・勉強に集中できるようになった。(筑後、2年生、軟式野球)
- ・礼儀正しさを学ぶことができる。(筑豊、3年生、卓球)
- ・挨拶や片付けなど当たり前のことが積極的に出来るようになる。(福岡市、1年生、ソフトテニス)

「生活面」の具体的な内容

- ・時間をしっかり見て行動するようになった。(福岡市、2年生、バドミントン)
- ・校則などをしっかり守るようになった。(筑豊、3年生、陸上競技)
- ・誰にでも挨拶をすること。(京築、3年生、バレーボール)
- ・規則正しい生活が出来るようになった。(筑後、2年生、卓球)

「その他」の具体的な内容

- ・精神面を鍛えられている。(京築、3年生、駅伝競走)
- ・体力が上がった。(筑前、2年生、バスケットボール)
- ・メリハリのついた時間の使い方。(福岡市、1年生、バレーボール他)
- ・挨拶などが完璧にできるようになった。(北九州市、3年生、バスケットボール他)

運動部活動は、「人間関係」を成長させてくれるとの回答が約60%で、「友情」「上下関係」「色々な人と関わるができる」など、大人になったときに役に立つことが身につくと感じている生徒が多くいることがわかる。

(4) 運動部活動が学校からなくなったら、どのようなことが予想されるか

項目	件数	割合
体力低下	4, 355	88.4%
仲間との関わりが減る	3, 162	64.2%
余暇時間が増える	2, 927	59.4%
スポーツをするきっかけをなくす	2, 437	49.5%
教師との関わりが減る	1, 977	40.1%
目標をもたなくなる	1, 855	37.7%
家族との関わりが増える	1, 700	34.5%
スポーツを全くしなくなる	1, 541	31.3%

「その他」の意見

- ・お金がかからなくなる、自分のことがわからなくなる。(京築、3年生、駅伝競走)
- ・自分が駄目になってしまう。(筑前、1年生、陸上競技)
- ・体力が余り、行動抑制ができなくなる。(筑前、1年生、陸上競技)
- ・生活リズムの乱れが生じる。(筑豊、1年生、卓球)
- ・社会性に欠けるようになる。苦難を乗り越える力、精神的に鍛えられる機会を失う。
(筑豊、3年生、陸上競技)
- ・学校が終わってからダラダラしてしまう。(福岡市、2年生、バドミントン)
- ・本気になれず何事にも中途半端に取り組んでしまう。(福岡市、3年生、バドミントン)
- ・学校に行きたくなくなる。(福岡市、1年生、バレーボール)
- ・仲間と協力する楽しさについて、スポーツを通して学べる機会が減る。(北九州、3年生、陸上競技)
- ・人としての基礎ができない。(北九州、3年生、陸上競技)
- ・忍耐力や心や楽しさや苦しさ仲間との成長など部活でしか知りえないことが出来なくなると思われる。
(北九州、3年生、陸上競技)
- ・その人の力を発揮する場がなくなる。(北九州、1年生、陸上競技)

運動部活動がなくなることで、「体力低下」「仲間との関わり減少」「余暇時間の増加」などを懸念しており、「その他」で「生活リズムの乱れが生じる」や「ダラダラする」などの基本的な生活習慣への悪影響が予想されることがわかった。このことは、新型コロナウイルス感染症のため一斉休校や、緊急事態宣言の発令に伴った部活動の休止などで生徒が実際に経験した部分が多いことが考えられる。

(5) 運動部活動が、さらに魅力的な活動になるために、どのようなことを期待するか

様々な期待される内容について、以下のような項目に分類した

分類項目	アンケート回答
人間的成長への期待	<ul style="list-style-type: none">・コミュニケーション能力の向上(上下関係、他校生との関わり)・技術の向上・礼儀の習得・充実した活動(目標設定、真剣に取り組む、チームワーク)
学校への期待	<ul style="list-style-type: none">・活動施設の充実・選択できる部活の増加
指導者への期待	<ul style="list-style-type: none">・専門の指導者派遣、外部コーチの充実・練習内容の改善(メニューを生徒が決める、勝てる練習の導入など)・指導方針の明確化(終了時間を決める、目標を立てて取り組むなど)
その他	<ul style="list-style-type: none">・大会や試合の増加・現状維持など

分類した項目の中では「人間的成長への期待」の内容については、活発な活動にしたいことや、充実した活動にするための取組みをしたいという意見が多くみられた。

「学校への期待」では、練習する場所の確保や熱中症対策などの改善を希望する意見が多くみられた。「指導者への期待」では、より専門的なことを学びたいという意見がある一方で、専門性よりも楽しく活動できるような部活を希望するという意見があった。

「その他」では、練習の機会を披露する場をもっと増やしてほしいという意見や、他校との関わりを増やしたいという意見が多かった。

3 まとめ

福岡県内の部活動生へのアンケートを通して、部活動入部のきっかけは入学した中学校に希望する種目が設置されているかが大きい要素であると分かった。部活動を通して成長を感じる部分については、人間関係と感じている生徒が多く、技能面、態度面など心身ともに成長できていると感じていることがわかった。また、部活動がなくなったら、体力の低下、仲間との関わりが減ることを懸念していることがわかった。新型コロナウイルス感染症の影響で、学校の一斉休校や部活動の停止などを経験した世代の切実な思いが感じられた。さらに、魅力的な活動になるために期待することは、コミュニケーション能力の向上や礼儀面という人間的成長や、施設の充実など学校への期待、指導者に関する期待など様々な思いがあることがわかった。全てを実現することは難しいが、生徒、顧問、保護者で活動の方針等を明確にすることが望ましいと考える。

今回の調査から、生徒が感じている部活動の意義については、人間関係づくり、技能面や体力面の向上、礼儀などの人間的な成長まで多岐にわたることが分かった。これは過去の研究で行った指導者や保護者が抱いている部活動の意義と一致する部分であり、部活動の価値といえる。つまり、今後も、現在の学習指導要領に位置づけられている形での部活動を継続する必要があるといえる。しかし、社会の変化に伴い、部活動に関する諸問題は、指導者、施設、部員不足、地域への移行など様々な要因がある。そのような社会の中で今後よりよい部活動へと発展していくために指導者、保護者、生徒の意識調査結果分析し、持続可能な部活動の在り方について検討していくことが大切である。